動物公園日誌

日直　ルーラ（クロザル）

わたしはルーラ。あら、ちょっとこわがらせてしまったかしら。全身真っ黒でモヒカンのような頭を見たら、だれだってぎょっとしちゃうと思うわ。でもわたしたち、けっこう人間たちに似ている部分があるのよ。少しでも親しみを持ってほしいから、家族のことをしょうかいさせてもらうわね。

まずは夫のジョニー。ジョニーもまた一段といかつい顔だけど、いつもわたしたちをやさしく見守ってくれているわ。朝ご飯のときも、私と子どもが食べているのを確認してから食べ始めるの。日常のちょっとした行動で、家族のことを第一に考えてくれているのが伝わるから、そのたびにほれ直しちゃうわ♥

長男のタイガは遊びざかりのやんちゃっ子ね。タイガはよく人間に向かって口をパクパクさせることがあるの。人間が赤ちゃんをあやすときにするアレに似ているわね。これはわたしたちのコミュニケーション方法の一つなの。もし見かけたときは、同じように返事してくれるとタイガも喜ぶと思うわ。

わたしの胸の中にいるこの子は、10月に生まれたばかりよ。赤ちゃんだとまだ顔は白いの。名前がついてないのは、飼育員がまだ性別を知らないからよ。心配でわたしがいつもこの子をはなさないせいね。わたしと夫によく似た、愛情深い子に育ってくれるといいわ。わたしが言うのもなんだけど、どんな名前がつくか楽しみだわ✨

問動物公園 ☎252-1111 FAX255-7116

学芸員が選ぶ 今月の✨イッピン✨

吉田博《光る海》

1926年　木版、紙

陽の傾く頃でしょうか、きらきらとまぶしく光る海面を、いくつもの帆船が心地よさげに滑ってゆきます。瀬戸内海集という、9点からなるシリーズに含まれる本作は、吉田博の海景を代表する1点。かのダイアナ元妃が愛し、執務室の壁にかけていたことでも知られる作品です。

作者の吉田博（1876-1950）は久留米市に生まれ、若き日に出会った水彩画に魅了されたことをきっかけに、洋画家を志します。西洋に渡り、修業を重ねて画界の重鎮となりますが、大正期の末から彫師・摺（すり）師との共同作業による木版画に軸足を移します。水彩画のように見えるこの作品も、実は木版画。おそらく十数回もの摺（す）りを重ねて作られています。メインテーマである光のきらめきは、よく見ると丸ノミの痕跡。リアルさを追求しつつ、迫真的なだけではない、木版画にしかできない表現を形にしようとする、ぎりぎりの表現が模索されているのです。

今年秋に展示予定です。ぜひ、ご覧ください！

西山学芸員

問市美術館 ☎221-2311 FAX221-2316

東京2020オリンピック・パラリンピック関連情報

さあ、MAKUHARI から未来へ

幕張メッセで7競技開催

千葉市内開催競技のアスリートを紹介

パラアスリートの未知（道）

田澤隼選手 × シッティングバレーボール

春高バレーから世界の舞台へ！何事にも前向きな、日本チームを支える守りの要

突然の事故にもめげない

競技の練習中も明るい声で周囲を盛り上げ、屈託のない少年のような笑顔が印象的な田澤隼選手。彼は19歳の時、祖父母が経営する農園で作業を手伝っていた際に、収穫した作物の運搬車両の運転を誤り坂から転落、右大腿を切断しました。その過去を語りながらも、何事にも前向きな田澤選手に障害ゆえの悲壮感はありません。「障害を負ったこと自体を、辛かったと感じたことはありません。一般の方と同じ生活を送っていますから」。

得意のレシーブで日本を守る

高校卒業後は地元企業に就職しましたが、障害をきっかけに社会福祉について学びたいと考え、地元の大学に進学しました。4年生の時に、スポーツ施設の職員からシッティングバレーボールを紹介され、競技に熱中します。というのも、田澤選手は小学3年生からバレーボールを始め、高校生の時には青森県代表として春の高校バレーにも出場した経験をもつ実力者でした。過去に培った実力がシッティングバレーボールでも遺憾なく発揮され、競技を始めて間もなく日本代表の強化合宿に呼ばれました。バレーボールではリベロ（守備）として活躍していた田澤選手は、今でもレシーブを得意とし、相手の攻撃に対し素早くかつ的確に対応し、失点を防ぎます。

田澤選手が日本代表として最も心に残っているのは、2018年のアジアパラスポーツ競技大会での韓国戦。実力が伯仲する相手との試合で、田澤選手をはじめ全ての選手が相手の激しい攻撃に耐え、粘り強く守った結果、フルセットの末に韓国を撃破しました。「勝利したことが本当にうれしかった」と、田澤選手は最高の笑顔を見せます。高校までのバレー経験を活かして、シッティングバレーボールという競技に出会い、その競技に魅せられた充実感こそ、田澤選手の活躍の原動力となっています。

東京2020パラリンピックに向けて

全国でも強豪チームである千葉パイレーツに加入するため、生まれ育った青森から千葉市へ活動拠点を移した田澤選手。チームの中心選手として活躍し、東京2020パラリンピックを目標に据えます。「地元開催で表彰台を狙います」と言い切る田澤選手には、人生をかけての大きな目標と確固たる覚悟があります。

問オリンピック・パラリンピック調整課 ☎245-5296 FAX245-5299